

## 第1回津島市民病院 救急医学会認定 ICLS 講習会

平成20年12月13日(土)に第1回津島市民病院 救急医学会認定 ICLS 講習会を開催し、医師(8名)看護師(13名)津島市・愛西市消防救急隊員(3名)の計24名が受講しました。

救急蘇生法を習得することは、患者を救命するうえで重要な技術であり、患者急変時の迅速な対応という視点からも必要不可欠なものです。医療現場における突然の症状の悪化や突発的な心肺停止などの危機は常にあります。心停止に陥った患者を救命するために重要なことは、最初の数分間の心肺蘇生が重要であり、蘇生処置にチームのひとりとして参加することが、全ての医療従事者に求められています。

そのため、院内の全職員が、BLS(一次救命処置)を習得すること、医療職がICLS(二次救命処置)を習得し、急な心肺停止に陥った患者に遭遇した時に、冷静、的確、かつ迅速に行動できるように心肺蘇生講習会を開催することが必要であると考えました。

今回、開催したICLS講習会は、「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標として日本救急医学会が提唱している蘇生トレーニングコースです。ICLSは、習得すべき内容を絞り込み、一連の蘇生処置の流れを、それぞれ1つのアルゴリズムとしてまとめてあり、あらゆる医療従事者が身につけておくべき、蘇生の基本的事項を習得できるように講習内容が組まれています。

最小のエッセンスを把握しておけば自信を持って蘇生処置に臨むことができます。蘇生現場でおこなう処置は時間との戦いです。院内の急変時にさらに自信を持って対応できるようになるには、ICLSコースを習得することが重要であると考え、このような講習開催企画を致しました。



挨拶とオリエンテーション



CMD 杉浦立尚先生(名古屋大学医師)

## 【ICLS コースの学習目標】

### 〈一般目標〉

突然の心停止に対する最初の 10 分間の対応と適切なチーム蘇生を習得する

### 〈行動目標〉

1. 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
2. BLS（一次救命処置）に習熟する
3. AED を安全に操作できる
4. 心停止時の 4 つの心電図波形を診断できる
5. 電気ショックの適応を判断できる
6. 電気ショックを安全かつ確実に行うことができる
7. 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
8. 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
9. 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
10. 治療可能な心停止の原因を知り、検索を行動に移すことができる

### 〈到達目標〉

午前中は、それぞれスキルを学びました。

## BLS



### 【目標】

- ☆急変現場における落ち着いた迅速な対応とその重要性を知る。(基本的に院内設定)
- ☆心肺停止の判断ができる。
- ☆人と物を集める重要性を理解し実施できる。
- ☆絶え間なく質の高い胸骨圧迫の重要性を理解し実施できる。

## AED



### 【目標】

- ☆BLS を確実にできる (ポケットフェイスマスクの使用)。
- ☆AED の使用方法を知り、安全かつ迅速な電気ショックができる。
- ☆心肺停止の判断ができる。
- ☆絶え間ない胸骨圧迫と換気を実施できる。
- ☆AED の音声メッセージに従い、操作できる。

## A i r w a y



### 【目標】

- ☆BLS での気道確保・換気方法を理解し正しく実施できる。
- ☆正しいマスク換気が実践できる。
- ☆挿管後の確認とその必要性を知り実践できる。

## M o n i t o r



### 【目標】

- ☆致死性不整脈 (Vf, PulselessVT, Asystole, PEA) と呼ばれる 4 つの波形の理解・鑑別ができる。
- ☆除細動が必要な波形を認識し、安全且つ迅速な電気ショックの実施ができる。
- ☆モニターを見る際に、脈拍確認を行う。
- ☆絶え間ない胸骨圧迫が行える。

---

午後からは、致死性不整脈(Vf, PulselessVT, Asystole, PEA) と呼ばれる 4 つの波形を診断、治療する方法を、あらゆる急変時の状況設定を取り入れ、受講生自身がどうすべきかを考えながら実際にシュミレーション教育を行いました。

## Primary ABCD

### 【目標】

- ☆ALS アルゴリズムを理解し説明できる。
- ☆蘇生時におけるチームリーダー、チームメンバーの役割を理解する

## VF / Pullseless VT

### 【目標】

- ☆心停止のうち VF/pullseless VT が診断できる。
- ☆除細動が安全確実に行える。
- ☆VF/pullseless VT の治療ができる。
- ☆VF/pullseless VT の原因検索の重要性を理解する
- ☆絶え間ない胸骨圧迫が行える

## PEA

### 【目標】

- ☆脈拍の触知が確認できる
- ☆波形の診断ができる
- ☆原因検索ができる
- ☆絶え間ない胸骨圧迫ができる

## Asystole

### 【目標】

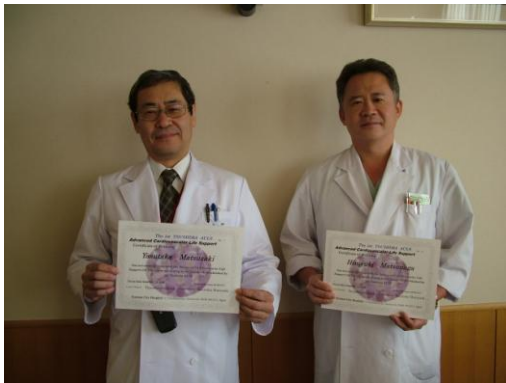
- ☆絶え間ない胸骨圧迫と換気
- ☆疑似心静止・潜在的心室細動：リード・感度・誘導の確認
- ☆本当に蘇生してよいのかを考えることができる
- ☆家族の対応を考えることができる
- ☆蘇生の中止基準がわかる

## MEGA

- ☆「Team Mega」 チーム医療の素晴らしさを知る

---

日本救急医学会認定 I C L S コースの開催は、救急蘇生を学ぶ会(救急医療業務改善委員会小委員会)で企画、準備をしました。コースディレクター(CMD) に名古屋大学の杉浦立尚先生(日本救急医学会 ICLS コース中部地区担当委員)を迎え、インストラクター(指導者)は、院内はもとより、ボランティア活動として蘇生教育に熱心に活動されておられる優秀な方々(医師、看護師、救急救命士)を、東海・岐阜・三重地区ほか遠くは岡山地区からお招きすることができました。



講習会終了後、受講生の方達からは、救命処置の知識を楽しく習得できた、受講して良かったと好評価をいただきました。また、インストラクターの方々からも、津島市民病院の受講生の方達は、活気があり受講生のモチベーションも高いとお褒めの講評をいただきました。

今後も継続していきたいと考えていますので、全職員のご理解・ご協力をよろしくお願いします。